

---

# 君との花

みるく

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君との花

### 【Nコード】

N0692Z

### 【作者名】

みるく

### 【あらすじ】

荒崎芽衣は玉川海人と幼馴染。そして、芽衣は海人のことがずっと好きでした。だけど海人は野原奈々と付き合っている。芽衣は見ていることしかできないのかな・・・??

君との空のまた別の話です。瞳たちと同じ学校ですw

## 登場人物紹介

荒崎芽衣　このお話の主人公。社交的な性格で友達が多い。海人のことが好きだが思いは伝わっていない。帰宅部　身長：153センチ

玉川海人　芽衣の幼馴染で奈々の彼氏。外見はよく性格もOK。友達思い。サッカー部　身長：167センチ

野原奈々　学年1の美少女で海人の彼女。成績はよく運動もできる完璧な少女。バトミントン部　身長：155センチ

原田沙希　芽衣の友達で江藤のことが好き。恋愛の話がとても好き。卓球部　身長：155センチ

江藤正輝　芽衣たちと同じクラスの少年。イケメンでけっこうもてるがナルシ。サッカー部　身長：167センチ

飯島瞳　江藤のことが好きな(?)少女。よく芽衣のクラスに来る。君との空の主人公。美術部　身長：157センチ

## プロローグ

「あのね?? 私たちってどういう仲間なんだろうね。」

私は毎日、疑問に思っていたことを幼馴染の海人に打ち明けた。なんていうのかな? 私は海人の返事を楽しみに待っていた。だけど海人は

「ん?? 腐れ縁??」

海人は関心のない顔つきで言った。そんな言い方はないでしょう。

私は『友達』とか『幼馴染』『恋人未満』っていう返事がほしかったのにね。私たちの縁って腐っているのかな?。

「そっかー。腐れ縁か・・・。」

私は納得していないけど納得したような言い方をした。そんな仲は嫌だな。

「海人!!!」

遠くから髪の毛の長い少女が走ってきた。私はうつむいた。

「お待たせ!!! あ!!! 芽衣ちゃんじゃん、お久しぶり。」

少女は私に挨拶をした。私は笑顔で返した。

「んじゃ・・・行くな。」

海人と少女は2人で仲良く歩いて行ってしまった。私は1人になった。あーあ・・・かなわないな。奈々ちゃんと海人は恋人同士。いつも2人で仲良くしゃべってるしね。うらやましいな、奈々ちゃんが。。。

## 愛しているといえる強さ

私は一人で川沿いを歩いていて。車が横を通り過ぎていく中、時の流れを感じた。海人とであったのは今から10年ほど前の話、確かまだ3歳だったと思うな。かすかな記憶の中にはっきりと海人とあったのを覚えている、不思議だね。

その頃の海人は今と違って恥ずかしがりやでいつも私の後ろに隠れていたな。犬が苦手でいつも犬がいたらおお泣きしてたっけ。今となつては懐かしいや。私は思い出に浸りながら歩いた。すると・・

「あれ?? 荒崎じゃん、何してんの?? 1人で。」

声がる方向を振り向いたらそこにはなんとクラスメイトの江藤がいた。

「な、何してるって・・散歩だよ。」

私は今にも涙があふれてきそうな目を隠しながら答えた。江藤は不思議な奴だ、いつも私が1人のときに現れる。運がいいのか悪いのかいつもことうときだ。江藤は自転車に乗っていたが、自転車から降りて歩き始めた。私と話すつもりらしい、私は江藤の後を追う。

「江藤は何をしてるの??」

私は首をかしげながら聞いた。江藤はふつと笑った。

「俺も散歩。」

そう言つて無言になった。無言のほう嬉しいな、へんな事を聞かれたら回答に困るし。私は江藤の顔をうかがいながら歩いた。江藤はただ前を真っ直ぐ見ながら歩いている。

「俺さ。」

「はい!!??」

私はびっくりした。このまま黙つて歩くだけだと思つていたから。

「実は告白されたんだよね。」

「ええ?? 誰に??」

「誰でもいいじゃん。」

「・・・ごめん。」

少し聞きすぎたかもしれないね。また2人は無言になった。ずっと無言。駅の近くになったところで江藤と別れた。江藤は結局何がしたかったのであろう。私は江藤を見習って前を向いて歩き始めた。そっぴいやつも下ばかり向いて歩いてたな。地面ばかり見て・だからあんまりこけたことがないのか!!! 納得した。前を向くとなんだか不思議な景色にかんじたのは気のせいかな? 前を向いていると切ない気持ちも吹っ飛ぶような気がした。海人と奈々ちゃんのことを忘れられるかもしれないね。そうだ、これからは前を向いて歩こう、そうすれば・・・そうすれば・・・私は足を止めた。いつの間にか涙があふれていた。

「忘れられるわけがないじゃん・・・。。。」

思い出すのは海人との思い出。プールでおぼれたり、犬に追いかけられたり、夜の花火、鬼ゴッコをしていていつの間にか迷子になっていたこと・・・2人で見た夕日。思い出すのはどれもこれも懐かしい思い出ばかりで切なかった。やっぱり忘れられない、忘れたくない!!! 私は涙を拭いた。もしも忘れてしまったら、全ての記憶がなくなるんじゃないかと思うくらい海人との記憶でいっぱいだ。私はまた、前を向いて歩き始めた。海人との記憶を思い出しながら・・・。

## 君がため

「芽衣よ、むかつくぜ」

いきなり私の肩をたたいてきたのは、友達の沙希。同じクラスでも仲がいいんだ。

「何が??」

私はまったくわけが分からないまま話を進めようとする、沙希に聞いてみた。むかつくということは私は沙希に最低なことをしてしまつたということだよな??あー!!思い出せない・・・私は沙希に何をしたんだろう。

「何って、昨日さ、江藤と一緒に歩いてたでしょ」

え、江藤??確かに一緒に歩いてたけど沙希ちゃんに關係あるの?・・・沙希、見てたんだ・・・私は海人以外の男の子と一緒に歩いてたという事実を今、思い出して顔が赤くなつた。

「いいな、江藤ってけっこうかっこいいじゃん」

沙希は両手を頬に当ててにやけていた。私はなんとなく沙希がいいたいことが分かつたような気がした。ようするに、イケメンと一緒にいてうらやましいということだ。でも、アイツはナルシじゃん。

私は江藤の性格を思い出して苦笑いになる。・・・そういえば、江藤つてもてるんだね、昨日も告白されたとか言ってたし・・・。

「そういえば!!飯島瞳ちゃんが江藤のことが好きっていう噂、聞いたことがあるんだよな!」

飯島沙希ちゃんってとなりのクラスの学級委員だっけ??よく、私のクラスにくるよね。アレは江藤に会うためだったんだ・・・なんとなく気持ちが変わるような気がする・・・。

「そういえば・・・海人くんはどうする気なの??」

沙希が真剣な顔で言つた、私は現実に引き戻された感覚だつた。

「ど、どうって・・・別に・・・海人には彼女がいるし。」

私はうつむいて答えた。そう、海人には奈々ちゃんって言う彼女がいるんだ。私には関係はない。

「もー!!奪っちゃいなよ!!!」

私の気も知らないで沙希は私に文句的なことを言う、私には告白なんて無理だよ……。ずっと一緒にいてあたりまえだと思ってた……。なのにさ……。いきなり好きな子ができたとか言われたら告白でないじゃん!!!私は数日前のことを思い出した……。

「俺さ……。好きな子ができたんだよね……。」

突然の海人の言葉に私は、ピアノを弾く手を止めた。弾いていたのは人気歌手・鈴木もさんの『好き』という曲、海人のために必死に練習してきた曲だ。

「え……。??いきなりどうしたの???」

私の額に冷や汗がでてきた。血の気が引いていく。

「3組の野原奈々っていう子。」

「奈々ちゃん……。??」

奈々ちゃんは学年で1番かわいって言われてるぐらいかわいい。

告白も何回もされてきているみたいで、バトミントン部だったと思う。

私はピアノに触れていた手を下に下ろした。

「そ、そっかー!!海人もついに恋をしたんだー!!よかったね、応援するよ。」

私は精一杯の笑顔で言った、私は演技がへたくそなので多分棒読みだったと思う。それでよかった、これで私の思いに気づいてくれる……。。

「ありがとうな!!!」

海人は今まで見たことのない嬉しそうな笑顔でお礼を言った。私の

恋は終わった……。私は海人が帰るので玄関まで見送っていたとき「んじゃ、明日、告白してみるよ。」

そう言つて、家に帰つて行つてしまった。そんな海人を見て私の目には大粒の涙があふれてきた。翌日の私の目は赤かった。悲しいことに海人は学校に行くとき、私の赤い目には気づいてくれなかった。そして、海人は奈々ちゃんに放課後告白した……。そして、奈々ちゃんも海人のことが好きだったことが判明して2人は付き合うことになったらしい……。その日の夜にきた海人からのメールには『明日からは、奈々と行く。』とだけ書いてあった……。

海人が好きな私は海人のことを思って、このまま身を引いたほうがいいのかな……？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0692z/>

---

君との花

2011年12月3日21時52分発行